

知立市の地域特性とありたい未来

1 知立市の地域特性

○コンパクトで密度の高い都市

- 東西 5.8km、南北 4.6km、面積 16.3km² あまりのコンパクトな都市であり、自動車であれば 10 分余りで他市に移動できる。市域のうち宅地は 4 割にも満たない。(知立の統計)
- 人口密度は約 4,400 人と高く、都市化したエリアを表す人口集中地区が市域の半分を占める高密度な都市。(知立の統計)
- 市内には知立駅をはじめ 5 つの駅があるとともに、国道 1 号・23 号が横断しており、西三河各市や名古屋市のアクセス性に秀でている。(知立の統計)

○西三河地域のなかの暮らしのまち

- 人口あたり事業所数は、碧海 5 市の中で最も少ない。(県統計)
- 昼夜間人口比率は 81.1 であり、市民の 2 割が通勤・通学のために市外に流出している。この数値は年々低下傾向にありベッドタウンとしての性質が強まっている。(知立の統計)
- 人口あたり市内総生産や製造品出荷額等は碧海 5 市のなかで最も低く、産業都市としての色合いは弱い。(県統計)
- ものづくり産業の集積する西三河地域の都市でありながら第 2 次産業よりも第 3 次産業の就業者が多い。(知立の統計)

○日常生活圏は市域を超える

- 男性の約 75%、女性の約 60%は市外で働いている。とりわけ 30 代から 50 代の男性の約 80%、女性の 20 代と 30 代は約 70%が市外で働く。(国勢調査)
- 従業先は、刈谷市が約 7 千人で突出して多く、豊田市や安城市が 4 千人台であり、西三河の企業で働く人が多くを占める。(国勢調査)
- 女性のパート・アルバイト等に限っては 50%近くが市内で従業しているものの、それ以外の働き方を選択すると 70%以上が市外となる。(国勢調査)
- 「家族や友人との外食」や「洋服・雑貨の購入」は 6 割以上、「病院、診療所」の 4 割近くが市外で用件を済ませている。(市民アンケート)
- 小売吸引力指数は 0.874 であり、市民による購買の 1 割強が市外に流出している。(県統計)

○名古屋から近いターミナル都市

- 知立駅は名鉄名古屋本線で名古屋市内の駅(神宮前)を出て最初の特急停車駅であり、1 日当たり約 2.6 万人の乗降客数がある。(知立の統計)
- 愛教大の通学バスや企業の送迎バスの発着駅として多くの学生や従業員が利用しており、朝と夕方は非常に多くの人々が往来する。(知立の統計)
- 他市町村に通勤・通学する人のうち鉄道を利用する割合が約 25%あり、公共交通機関が通勤手段として活用されている。(国勢調査)
- 知立市から名古屋市に通勤する人は約 3,200 人である。就業者の約 9%を占めるが、名古屋駅から 10~20 分圏域にある一宮市(約 15%)、稲沢市(約 20%)、知多市(約 17%)、豊明市(約 23%)と比較して低く、西三河地域で働く人が居住地として選択する都市となっているものの、名古屋市のベッドタウンとしての様相は強くない。(国勢調査)

- 市民の多くは知立市を「西三河の自動車産業で働く人が住む場所」としてお勧めできるとしているものの、「名古屋で働く人が住む場所」と考える人は少ない。また、19 歳以下や中高生は西三河や名古屋で働く人が住む場所として考えている人が少ない。(市民アンケート)

○移動手段を自動車に依存

- コンパクトな都市であるものの世帯あたりの自動車保有台数は 1.51 台で、市民生活に自動車が欠かせないものとなっている。碧海 5 市の中で最も低い割合であるが、市域がコンパクトであるからだけではなく、世帯あたり人員の少なさが影響している可能性もある。(国勢調査)
- 通勤・通学における利用交通手段について、自家用車だけの割合が最も高い。自市に通勤・通学する人は約 46%、他市町村に通勤・通学する人は約 62%となり、就業者にとって自動車保有が必要不可欠となっている。(国勢調査)

○いまだに人口が増加傾向にあるものの、自動車産業の業況に影響を受けやすい

- 全国的に人口減少期を迎えている中で、知立市の人口は 2000 年以降も堅調に増加を続けていたが、コロナ禍に減少に転じた。しかし、2023 年には下げ止まり、僅かに増加に転じている。(知立の統計)
- 現在も自然増(出生-死亡)が続いている。日本が自然減に転じたのは 2007 年、愛知県 2017 年であり、知立市は自然増を継続する数少ない都市のひとつ。(知立の統計)
- 市外の自動車関連産業の大きく依存した就業構造にあるため、市の人口は自動車関連産業の業況の影響を受けやすく、コロナ禍に社会減に転落。(知立の統計)

○少子高齢化の速度は全国と比較して大幅に遅い

- 碧海 5 市および西三河と比較すると、知立市は生産年齢人口の比率の高いことが特徴であり、地域の産業活動やコミュニティ活動の担い手に恵まれた都市である。就職や結婚を理由とした転入が続いているため、まち全体の年齢が若い。(国勢調査)
- 15 歳未満人口は約 14%で全国の約 11%を上回る。0~4 歳、5~9 歳は男女とも 1,500 人前後と 45~49 歳(団塊ジュニア)の半数程度にとどまり、自然増にあるものの少子化傾向にある。(国勢調査)
- 65 歳以上の高齢者人口は約 20%であり高齢化の状況にあるものの、30%近い全国を大きく下回る。(国勢調査)

○男性の比率が高い

- 碧海 5 市の中で男性比率が最も高い。女性人口を 100 とした男性人口の比率は、25~29 歳で 142 となっていることをはじめとして 20 代から 50 代において極端に男性の多いまちである。自動車をはじめとするものづくり産業への就職に伴う知立市への転入が大きな要因となっている。(国勢調査)
- 男性の未婚割合は 30~34 歳で約 47%に達しており、35~39 歳でも約 34%と高く、未婚化・晩婚化が進んでいる。また、知立市の男性の生涯未婚率は約 28%であり、西三河の市町村で最も高い。一方、女性の未婚割合は男性よりも 20 ポイントあまり低く、晩婚化・未婚化はみられない。結婚を希望しても、叶えられない男性が少なくないものと予想される。(国勢調査)
- 全ての年代において単身世代の割合が高く、未婚男性の多くは単身で暮らしている。(国勢調査)

○世帯規模が小さい

- 世帯の6割以上が2人以下、4人以上の世帯は約2割にとどまり、親子で暮らしている世帯は少数派である。(国勢調査)
- 単独世帯の割合は、世帯主が29歳以下のときに約73%と突出して高い。ものづくり産業への就職を契機に転入した一人暮らしが多いものと予想される。(国勢調査)
- 単独世帯が多い影響もあり17歳までの子どもがいる世帯は全世帯の2割程度にとどまる。碧海5市および西三河と比較して最も割合が低い。(国勢調査)

○多文化共生が根付く地域がある

- 外国人人口は約5千人で、総人口の7%を超える。うち5割近くをブラジル人が占めているが、近年はフィリピン人やベトナム人が増加している。(知立の統計)
- 都市再生機構の住宅が約2千戸供給されている。UR知立団地では2000年以降、外国人が増加。現在は住民の60%以上が外国人となっている。(県統計)
- 直近5年の人口増加のうち、外国人人口による人口増加が7割近くを占める。(知立の統計)

○持ち家を購入するまで一時的に暮らすまち

- 持ち家の割合が住居全体の約半数にとどまる。碧海5市および西三河と比較して持ち家の割合が最も低く、住宅を購入する前に住むまちという性格を有する。(国勢調査)
- 20代で居住期間5年未満の人が5割弱であり、住民の入れ替わりが激しい。転入者が多い一方、10歳以下や35-39歳で転出超過になっており、持ち家取得のライフステージで市外に転出する傾向がうかがえる。(国勢調査)
- 住宅地平均地価は碧海5市の中で刈谷市に次いで2番目に高い。1住宅あたり延べ面積は碧海5市の中で最も狭く、地価が高いために面積の狭い賃貸住宅が供給されているものと予想される。(県統計)

○市制施行期に整備された地域が世代交代の時期を迎えつつある

- 1970(昭和45)年に市制施行し、2020年に50周年を迎えた。昭和30年代から土地区画整理事業を開始し、多くの宅地を供給している。そのため人口及び世帯数は昭和40年代に急速に増加した。
- 知立市に居住したきっかけのうち、「自身もしくは配偶者が住宅を建てた・購入した」人は70代が約35%で最も高く、40代、50代を15ポイント以上上回る。40年ほど前に移住してきた人が中心であり、古い住宅が増えている。(市民アンケート)
- 空き家率は9.8%で、碧海5市の中で2番目に高く、住宅更新期を迎えつつある。(県統計)

○アクセス利便性が魅力

- 市民の考える知立市の魅力はアクセス利便性にある。「知立駅から名鉄で移動しやすい」と考える市民は約75%であり、「市外へ自動車移動しやすい」、「市内から通勤可能な圏域に有名な企業が多い」なども認識されている。(市民アンケート)
- 一方、市内の渋滞が多いことも課題とみなされている。(市民アンケート)

○歴史に培われた文化が根づいている

- 古くから交通の要衝として栄え、東海道39番目の宿場町「池鯉鮒宿」として繁栄したまちである。
- 松並木、一里塚、知立古城、本陣跡などの歴史的資源が多く、知立まつり(例祭)をはじめとする祭事、縁日や寺の市などの文化が残っている。(市民ワークショップ)
- あんまきや三河仏壇など、江戸時代から続く老舗がある。(市民ワークショップ)

○30代の多くが知立市を誇れない

- 市民の多くは知立市に対して愛着を感じているものの、誇りを持っていない。しかし、中学生・高校生などの若い世代や高齢者は誇りを持ってている人が多い。(市民アンケート)
- 30代は他の年代に比べて誇りや愛着を感じない人が突出して多い。(市民アンケート)
- 30代は、知立市のことを、「子どもを出産・子育てする」、「子どもたちが市内で小中学校の時期を過ごす」、「市内で永住する」場所としてお勧めできないとしており、誇りを持ってない要因のひとつになっている。なお、「子どもを出産・子育てする」ことについては、すべての年代にわたってお勧めできないとする市民が多い。(市民アンケート)

○暮らしていくうえで不満を抱えている

- 日常生活圏が市域を超えて広がっているなかで、「病院、診療所」をはじめ、「食料品・日用品の購入」や「家族や友人との外食」、「洋服・雑貨の購入」「公園利用・スポーツ活動」は多くの市民が不満を感じている。(市民アンケート)
- 「素敵な店が少ない・好きな店がない」や「公共施設が充実していない」ことが知立市で暮らしていくうえでの難点とされている。(市民アンケート)
- 「自分らしい時間を過ごせる場所」や「何度も行きたくなるような感性をくすぐる店」、「家族でゆっくり過ごせる場所」などは多くの市民にとって暮らしていくうえで重要とされているが、知立市には備わっていないとみなされている。(市民アンケート)

2 知立市民が叶えたい暮らし方・働き方

○子育て中のパパ・ママが共働きしやすい、子育てしやすいまち（市民ワークショップ）

- 再開発により立派な駅ができるので、市内外から行きたいと思える駅周辺にしていきたい
- 駅前に小さい子連れで気軽に入ることができる店があるとより人が集まりやすくなる

○子育て中のパパ・ママが移住したい！継続して住みたいまち（市民ワークショップ）

- 安心して生活できる環境（きれいな歩道、明るいまち）、安心して子育てできる環境（いじめ対策）により、他市から移住したいと思えるような魅力が高まると良い

○育ちざかりの小学生・中学生が知立を自慢できるまち（市民ワークショップ）

- 市外に住んでいる人に自慢できるようなまちになってほしい
- 小中学生が楽しく過ごせる施設や、小腹が空いたときに気軽に利用できる小規模なスーパー、商店街があると良い

○名古屋に通勤する若い人が早く帰って異種仲間と地元でワイワイしたいまち（市民ワークショップ）

- 交通の拠点であることを活かし、対面で多様な交流ができる場所（コワーキングスペース、えきまえ図書館等）があると良い
- 市民サークル等の活動が盛んになればまちの空気が変わる

○子育てがひと段落した人が町育てできるまち（市民ワークショップ）

- 行政になんでも要望しがちだが、市民自身がボランティア等によりまちを育て、人活気のあるまちになると良い

○知立市に引っ越してきたばかりの人がつながりやすいまち（市民ワークショップ）

- 引っ越してきたばかりの人が「人」「地域」「情報」につながりやすいと、充実した生活が送れる
- 安心して運転できる広い道路がほしい

○歴史好きの人が散策できるまち（市民ワークショップ）

- 市内には知立神社、知立古城跡、池鯉鮒宿本陣跡、東海道松並木等の歴史的な資源があるため、市民だけでなく、市外からも人が集えるような場所になってほしい
- 駅周辺を活かしたまちづくりを進め、歴史と文化、芸術の発信ができると良い
- 民活により市民が誇りを持てるまちを目指す

○2人暮らしの高齢夫婦が安心して暮らせるまち（市民ワークショップ）

- 健康診断だけでなく運動習慣や体に良いものを取り入れる習慣を身につけるサービスを市で行い、健康でいられると良い
- 困ったときに相談できるサービス（買い物代行、病院への送迎）があると良い

○子育てがひと段落した人がみんな元気に暮らせるまち（市民ワークショップ）

- 市民が元気ならまちも元気になるため、医療費削減のために市民の健康管理に市税を投入してほしい
- 公園やランニングコースがあると気軽に健康づくりができる

○市民がまちに愛着を持っている（総合計画審議会）

- 子どもたちが小さなころから知立市に愛着を持てる何かを期待。

○あらゆる世代にやさしい、誰一人取り残さない（総合計画審議会）

- 子育てや若い世代に関する意見が多く出るが、高齢化社会で「幸齢化」にするために、高齢者に優しいまちであることも考えていただきたい。バランス感覚が非常に重要。
- 誰一人取り残さない福祉を目指し、ゆりかごから墓場まで一人ひとりが大事な人であるということを自覚できるようなまちであってほしい。
- 誰一人取り残さないためには、あらゆるマイノリティの方などが、本当に取り残されていないのか実態を適切に把握することが重要。

○子どもたちが住みたくなる（総合計画審議会）

- 子どもたちが住みたくなるという視点も入れていただきたい。

○市民がずっと活躍できる、一人ひとりが輝ける（総合計画審議会）

- 知立市はボランティア団体や市民活動団体が150以上あり活躍されている。知立市でこのような活動ができるということを、お年寄りになっても貢献できるということを、是非とも発信できるまちであってほしい。
- とにかく人を大事にする、一人ひとりが輝ければ。

○周りから羨ましがられる（総合計画審議会）

- 地域に魅力が生まれることで、愛着も向上する。周囲から羨ましがられるような魅力づくりについても検討いただきたい。

○人と人がつながる、助け合う、支え合う（総合計画審議会）

- 以前と比べて地域の繋がりなども希薄化しているため、人と人とのつながりの面も考えていく必要がある。人のつながりがあってまちづくりは完成するものなので、ハードとソフトのバランスを考えていくことが重要。
- もともと馴染みのなかった知立市に転居して、これまで住み続けられているのは、近所や周囲の人の支えがあったから。誰もが安心して長く住んでもらえるという視点をもって検討いただきたい。
- 新地公園のドリームイルミネーションには、子連れの方が多く集まっており、出店もあり賑やかだ。こうした場所で市民同士の交流を生み出せるとよい。
- コンパクトであるからこそ、共助による社会サービスが生まれやすいまちであるとも言える。

○ホッとできる、安心して過ごせる（総合計画審議会）

- 知立市のようなコンパクトシティで人口が7万人いるということは、人が顔を合わせる機会が多いことが予想される。そうしたことによるストレスから、家に帰る前に一息つく空間が欲しいという話にもつながるように思う。
- 市民一人ひとりが防災意識を持っている。

3 将来の知立市の人口・産業

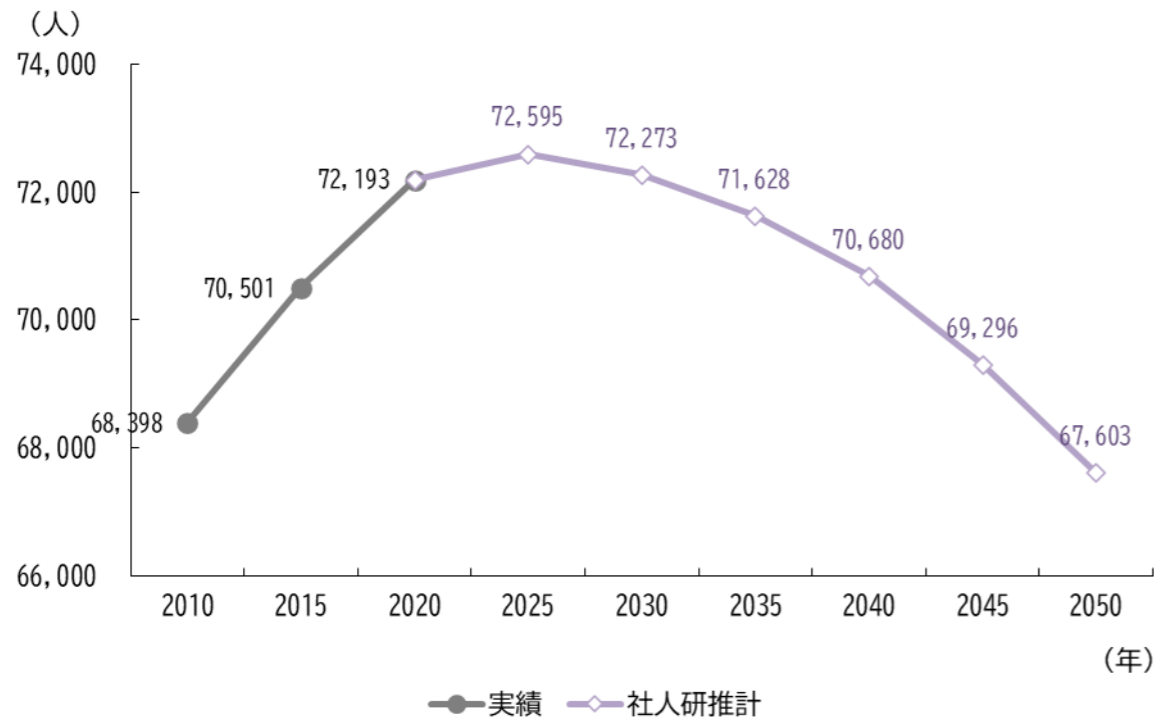
○人口のピークは2025年（国立社会保障・人口問題研究所推計結果）

- 国勢調査における知立市の人口のピークは2025年であり、計画期間である2035年は2020年実績値を約500人減少にとどまる見通し。人口のピークは日本よりも15年も遅い。
- 15～64歳人口は2025年にピークを迎え、2035年は2020年を約1千人下回る見通し。

○計画期間において少子化のスピードは遅いが、高齢化は進む

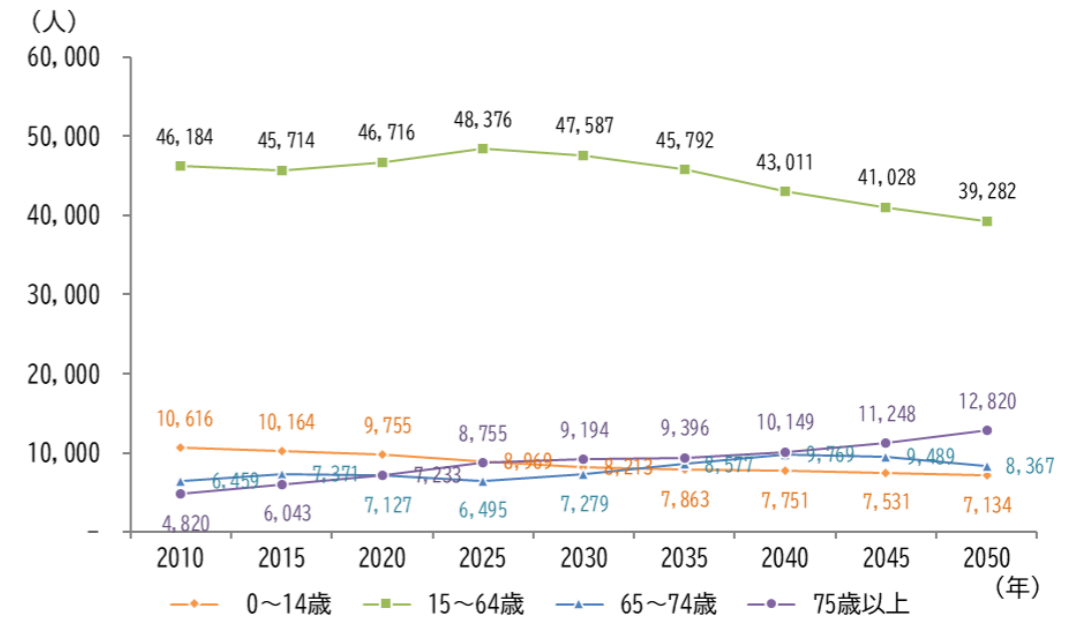
- 2035年に65歳以上人口は25.1%、日本の高齢化よりも20年遅い（日本は2023年に29%）。
- 20～39歳女性人口は2035年には2020年比3%減、45年には15%減と加速度的に減少。0～14歳人口は減少する見通しにあるが、2035年に0～14歳人口は約11%程度で維持し、子ども比率は高く推移する。
- 65～74歳人口は減少から増加に、75歳以上人口は25%以上増加する見通し。

知立市の将来推計人口

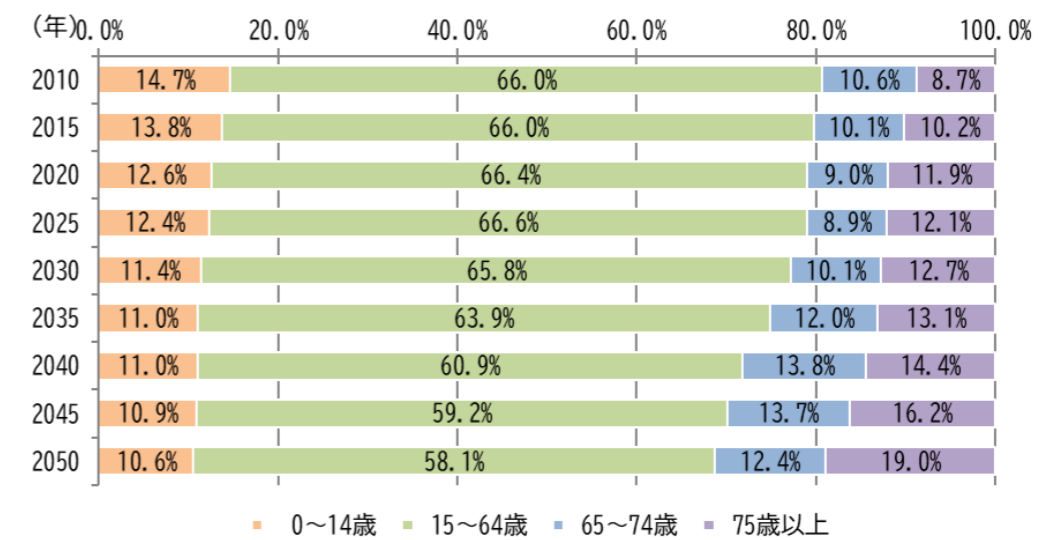


※上記は、国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」をグラフにしたものです。

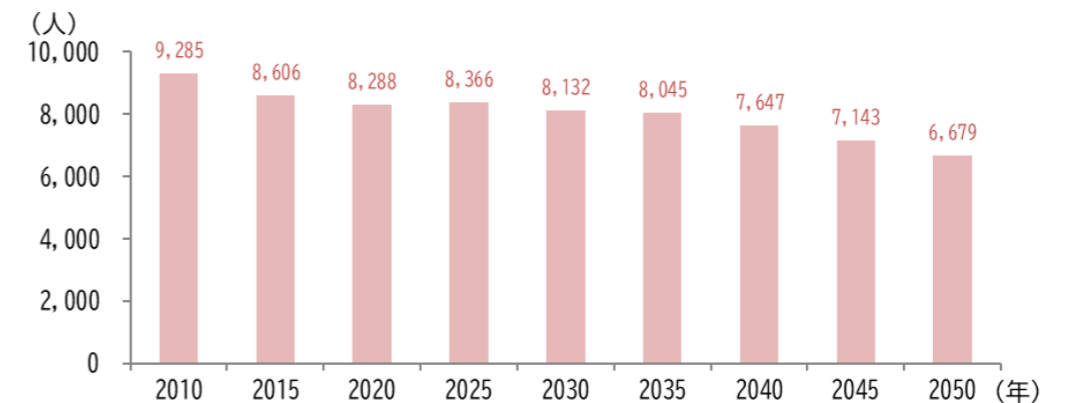
知立市の年齢4階級別人口（将来推計結果）



知立市の年齢4階級別人口構成（将来推計結果）



知立市の20～39歳女性人口（将来推計結果）



4 こうりたい知立市の未来

※各項目の箇条書き部分は未来を連想しやすくするためのイメージであり、現時点では具体的な施策を想定しているわけではありません。

1) 周辺都市と比較して生活費の負担は大きいものの、子どもが育つ環境や子育てと生活を両立する環境のよさから、小学生の子どもを持つ家族が知立市で暮らしたいと考え定住する。

- ・ 学校教育やスポーツ、キャリア教育など、質の高い学びを受けられる環境が整っている。
- ・ 放課後児童クラブや相談体制の充実により子育てに対する安心感が高まっている。
- ・ 子育て中の親が希望する暮らし方や働き方が叶う。

2) 名古屋市中で働く人が生活するまちとしてのブランド力が高まり、知立駅をはじめとする鉄道駅周辺の居住人口が増加する。

- ・ 駅周辺には日用品購入や食事ができる場などができ、近隣に暮らす人たちの生活利便性が向上する。
- ・ 名古屋までのアクセス優位性と利便性の高い生活環境、子育て環境のよさから住みたいまちとして注目される。
- ・ 名鉄名古屋本線・三河線の高架化が進み、沿線のブランド力が一層高まる。
- ・ リバースモーゲージ等の活用により中古住宅の流通が活性化し、若い世代の住宅の選択肢が増える。
- ・ 古い住宅は店舗や飲食店等にも利用され、スパイスの利いた魅力的なスポットが市内各地に創出される。

3) 知立駅周辺の再開発をきっかけに、魅力的で便利な地域になり、そこで働く人や立ち寄る人が増える。

- ・ 自身の希望に応じた働き方に合わせた起業にチャレンジする人が増えている。市内にコミュニティビジネスが生まれ、様々な形態の小売・サービス、観光事業等が登場する。
- ・ 魅力的な店舗が点在するとともに、イベント等が定期的開催され、駅周辺に行けば何か楽しい体験ができると思える雰囲気が醸成される。
- ・ 知立駅から通勤・通学バスに乗り換えて通勤・通学する市外の人や知立駅から通勤・通学する市民が駅周辺で時間とお金を消費する。
- ・ 豊富な労働力が魅力となり、様々な業種の企業が新たに進出する。

4) 子どもを持つ世帯をはじめ、様々な人が自己実現したり、交流を深められる場や機会が新たな投資により創出され、まちに対する誇りが育まれる。

- ・ 公共施設や駅周辺整備で生まれる広場等が積極的に利用され、趣味や学び、市民活動等を行うために多くの人を訪れる。
- ・ 市民相互の新たな交流が促進されることで、市民主体による多様な活動を生み出すエコシステムが形成される。
- ・ 子どもを持つ世帯が集まり交流できるイベントが開催される等により、子育てを応援するまちとしてのイメージが定着する。

5) コンパクトなまちの特性を活かして、公共交通や自転車・徒歩による移動がしやすくなるとともに、ゆっくりとした移動を楽しめるまち、遠距離移動に頼らない暮らしが形成される。

- ・ 宅配サービスの普及や自転車等のシェアリングシステム導入等により自家用車がなくても困らない生活環境や移動手段が構築されている。
- ・ まちなかに休憩スポットや立ち寄りスポットが点在し、散策や自転車によるゆったりとした移動を楽しむことができ、健康づくりに関心を持つ人が増えている。

6) 高齢者や単身者、外国人はじめ、すべての市民が孤立することなく、地域社会とのつながりを感じながら安心して暮らしている。

- ・ 文化や習慣、価値観の違いを理解しあい、あらゆる人たちがお互いを認め合っている。
- ・ 様々な社会参加の機会が提供されるとともに、誰もが気兼ねすることなく参加しやすい雰囲気が創出され、人との出会いやつながりが生まれている。
- ・ 全ての市民が地域社会の一員であることを認識できている。

7) 地域の歴史や文化を継承するとともに、昔からあるものを大切にすることで、持続可能な風格のあるまちになっている。

- ・ 地元のまつりが盛り上がり、将来の担い手が着実に育っている。古くから受け継がれてきたまちなみや地域活動を次の世代に繋ごうとして活動する市民が増えている。
- ・ 現代の生活スタイルにあわせてリノベーションを行いながらも、成熟した街並みは保全されている。
- ・ 地域の課題を自分ごとととらえ、その解決を目的として活動する市民団体やコミュニティビジネスが増加している。

8) 知立市で暮らす魅力やまちのよさが広く認識され、知立市民であることを誇りに思う人が増えている。

- ・ SNS やマスメディアによる情報発信を通じて知立市の魅力が拡散され、まちの魅力に対する認知度やイメージが向上する。
- ・ これまで知立市に対する思いのなかった市民が、知立市で暮らしている価値に気づく。その価値を更に発信する。
- ・ 子どもたちが、知立市を理解し、好きになっている。知立市に対する興味が高まり、様々な地域活動に参加している。

9) 地震や集中豪雨などの自然災害や犯罪に対する不安を感じることなく、安心して日常生活を過ごしている。

- ・ 地域の防災体制が充実するとともに、市民一人ひとりが災害発生時の行動を認識しており、大規模災害に対する不安が少なくなっている。
- ・ 夜でも安心して外出できる。